先週の礼拝メッセージ(2024 年４月７日) ベン牧師

「賛美への招き」　詩編 150:1-6

150 編はすべての節で「神を賛美せよ」と繰り返されます。その中には、なぜ神を賛美するかの理由は記されていません。つまり、この詩編を読む人がすでに神を賛美する理由を知っているという前提で書かれているからです。

「ハレルヤ。主の聖所で神を賛美せよ。主の力の溢れる大空で神を賛美せよ。」(1 節)

「ハレル」とは賛美する、「ヤ」は主(ヤハウエ)という意味です。続いて「神を賛美せよ」と、日本語では記されていますが、これも原文では「ハレル」「エル(神のこと)」となっています。ですから１節は、「ハレルヤ、ハレルエル」と賛美の言葉でこの詩編は始まっています。

2～5 節も賛美せよと続いていますし、最後の節６節も、

「息あるものはこぞって主を賛美せよ。ハレルヤ。」と、「ハレルヤ、ハレルヤ」と賛美で締めくくっています。神を賛美することの素晴らしさ、大切さを、この詩編は始めから終わりまで、私たちに語っています。

私たちにとって、神を賛美するということが困難に覚える時があるのは、正直なところ事実です。もちろん良いことが起こればクリスチャンなら当然、神を賛美します。ところが良くないことが起こった時はどうでしょう。もちろん聖書は、ネガティブなことを一切言ってはならないと言っているわけではありません。ダビデだって、詩編の中で「いつまで私を忘れるのですか。」(13 篇等)と神に訴えています。神はそれを咎められたりはしていません。私たちの心の状態を素直に神に申し上げることは何ら間違いではありませんし、表面だけを取り繕って良い子ぶるより、正直な姿を主は喜ばれます。神様は、私たちのそんな弱さも欠けも、全てをご存知の上で、私たちを丸ごと受け入れて愛してくださるお方です。

パウロは、ローマ５章で「苦難さえも喜んでいます。」と言っています。なぜなら、「苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと私たちは知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」(ローマ 5:3-5)

パウロのように喜びが内にあるなら、私たちも嫌なことがあっても、神をほめたたえることは不可能ではありません。この喜びとはいったいどこからくるのでしょうか。私たちの努力によってでしょうか。性格や考え方からくるのでしょうか。いいえ、それらには限界があります。神様は、神を信じる私たちの内に聖霊を与えてくださっているではありませんか。聖霊は、私たちに力を与えるだけでなく。愛も平安も喜びもすでに満たしてくださっています。

「霊の結ぶ実は、愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、 柔和、節制」(ガラテヤ 5:22、23)

私たちが喜べない時も、聖霊が私たちに働いて、私たちの内に喜びを作り出してくださるのです。だからこそ、聖霊によって私たちは神をほめたたえることができるのです。この恵みを知っている者は、詩編 150 編の意味を知り、そのままアーメンと受け入れることができるのです。私たちが良い時も悪い時も、神をほめたたえることができるように、聖霊は私たちの内にあって、満たし、慰め、導き、促してくださっているのです。すべて神様の側で成し遂げてくださっているのです。ですから、私たちのすることは、聖霊に委ねるということだけなのです。私たちは神様をほめたたえるために何かをしなければいけないとか、良い状態でいなければということは考えなくていいのです。目をとめるべきは、聖霊が内にいてくださり、その声に従っていくことだけです。それがどんな時にも神を賛美するということを可能にするポイントです。冒頭で、150 編には神を賛美する理由が記されていないと言いましたが、クリスチャン皆が、その理由をすでに持っているからなのです。

それはイエスキリストの十字架で罪の赦しが与えられ、イエス様は死に勝利してよみがえり、信じる私たちに永遠の命を与えてくださり、聖霊が内に住んでくださり導いてくださっている、、からです。

主をほめたたえるところには主の臨在があります。イエス様は良い時も悪い時も、私たちとともにいてくださることを忘れないでください。そして、主を賛美しましょう。そうする時、私は変えられ、私の周りも変えられるのです。そのような賛美を主は喜んでくださるのです。